

# つながりの中で生きる

社会にはいろいろなつながり方があるけれど、密着しすぎたり枠にはめられると息苦しく、かといって独りだけでは生きられない。ゆるやかな関係性と適度な距離感を保ちながら、つながりの中で安心して生きていくにはどのように「縁」をつくり、どのように紡いでいけばよいのだろうか。しなやかにたくましく、あるいは不器用にぶつかりながら走り続ける女性たち、それぞれのつながりに注目した。

## 「女縁」を生きた女たち

上野千鶴子編, 岩波書店, 2008年

367.2  
ウ

「女縁」とは、血縁や地縁には当てはまらない、選択性の高い人間関係にある女性同士のつながり。女縁をエンジョイしている人を「えんじょ（縁女）いすと」と著者は呼ぶ。80年代から始まった脱専業主婦たちの女縁活動の実態と、未来予想も含めた女縁研究（再録）、当時この研究にも関わった主婦たちの起業会社「アトリエF」メンバーらのその後20年を収録。最終章では、著者の予測を社会構造や経済事情の変遷と絡めて検証。カネはなくても「人持ち」の女縁ネットワークは、人生の危機や高齢期にはめっぽう強いらしい。現代の孤立化・個人化傾向の先には、どのような選択縁社会が形成されてゆくのか気になるところである。

## ファンタスティックに生きる ようこそ、女のセカンドステージへ

久田恵著, 共同通信社, 2010年

914  
ヒ

著者は長年にわたる両親の介護を通じて、今の自分を楽しもうと考え、自己解放を共に実現する場「花げし舎」を立ち上げた。これにより、ふさぐ気持ちから放たれたという。主催するアリスのお茶会には、シングルマザーやシニア世代、年齢も生活環境も異なる人たちが集い、ざっくばらんに会話を楽しむ。こうした出会いのはじまりがやがては陶芸教室や音楽人形劇へと枝葉をのばしていく。生活リズムをくずすことなく、個と個が自由なスタンスで出入りする程よいつながりは、どこか懐かしく、然しながら今こそ求められている絆の形ではないだろうか。



## ゆっくりやさしく社会を変える NPOで輝く女たち 秋山訓子著, 講談社, 2010年

335  
ア

NPO活動のフロントランナーとして、道を切り開いてきた4人の女性たちが紹介されている。彼女たちに共通しているのは、身近な地域で困難に遭遇し、あるいは遭遇している人たちと出会い、それを「何とかしたい」という思いに衝き動かされて、自ら活動を始めたこと。ゼロからの地を這うような活動は、少しずつ確実に、地域や世の中を変えていく。女でも男でも、子どもでも年をとっても、病気になっても障害があっても、誰もが住みやすく幸せを感じられる社会をめざす彼女たちの活動は、人と人とを結び、地域に広がり、確実に次世代へとつながっていく。

## つながりゆるりと

小さな居場所「サロン・ド・カフェ こもれび」の挑戦  
うてつあきこ著, 自然食通信社, 2009年

369  
ウ

ホームレス支援団体スタッフである著者は、ホームレス当事者が人間関係の貧困に陥っていることに気づく。彼・彼女らの失った「力」を取り戻すには、人と出会い、ゆるやかに関わり、人への信頼を回復できる場が必要だとカフェ事業を立ち上げた。当初の「支援する、される」関係は、カフェ運営を共にすることで「支え合う」関係へと変化していく。だが望んでいたその関係にも、男女の枠への捉われが根強く残っていた。互いに心地よい関係づくりには、相手も自分ももっと変わる必要がある。模索は、まだ始まったばかりだ。



## お先に自由に働いてます 家族・自分・仕事を大切に ワーカーズ・コレクティブ 近畿連絡会編, ワーカーズ・コレクティブ 近畿連絡会, 2006年

335  
ワ

ワーカーズ・コレクティブとは地域貢献を目的とした非営利の事業を、働く人たちで出資・運営する労働者共同組合の一種である。本文アンケート結果によると、ワーカーズ・コレクティブという働き方のスタイルをたまたま選択した人が多いように「縁」をきっかけとして関わる人が圧倒的で、理念と同じぐらい、縁を作り強化維持を大切にしている。活動に賛同した人々が協働することで、人・まち・社会など相互の活性化につながっている。自分たちの住むまちを暮らしやすくできる仕事そのものと自分や家族をも大切にできるワーカーズ。この働き方は自由でありながら一人一人がしっかりと責任を背負っている。

## すれ違う背中を

乃南アサ著, 新潮社, 2010年

913  
ノ

刑務所で出会った芭子と綾香の物語。罪ゆえ血縁を絶たれた芭子は祖母が遺した家に独りで暮らす。同じ町に住む綾香は自分の店の開業を夢みてパン職人として働く。続いて芭子も前科を隠しペット店で働き始め、更に刑務所で身につけた技術を活かして犬の服作りで自分の道を探り出す。順調な再出発だが日常には波風が待ち受けている。挫けそうな時、頼れるのは互いの存在だ。十字架を背負う者同士の友情以上で支えあう二人の関係は眩しく映る。緊張しながらも孤立せず祖母の生前を知る隣近所と交流する様は微笑ましく、二人の再挑戦を応援したくなる。

